

## 2 ~ 落ちたライバル ~

こうたろうは、毎日、たかしを探して町を走り回りました。先生のためにも、必ず見つけなければなりません。

1週間ぐらいたった日のこと。町のホールに、たかしはいました。売れっ子の若手ピアニストとして。

こうたろうを見たたかしは、驚いて逃げようとしてました。でも、何かあきらめたように、足を止めました。

「どうして“ひびき”を作ったのがおまえになっているんだ？」

怒って聞いてくるこうたろうに、たかしはいいました。

「おれは先生の楽譜を持っていたんだ。それを参考にしただけだ！」「同じ名前の曲があってもいいだろ！」

こうたろうは、あきれてしまいました。確かに見た楽譜は、先生が作ったものとは違いました。変調してあったのです。

「参考にしたのかもしれない。でも、調子を変えていてもあとは全く同じじゃないか！」「おまえは先生に育ててもらった恩を忘れたのか？」

そう言いのこして、こうたろうはホールをあとにしました。反省の色の見えないたかしを残して。

### 2のポイント

たかしはあくまで参考にしたとっています。

先生の“ひびき”とたかしの“ひびき”は曲調が違います。

楽譜やCDが売れると、たかしにお金が入ります。

### 問い

1. 自分の作った作品と同じものを、他人が作って売っていたとしたらどう思いますか？それはなぜですか？
2. たかしは“ひびき”を売る前に何をすべきでしたか？それはなぜですか？